

平成二〇年（二〇〇八年）二月二十三日 地球の温暖化

神から人へ、人から神へ。

常に変わらぬ交流を、絶えざる循環、交わす祈りを。

さにて本日、今の地球の最も危機なり。存続するか、滅亡するか、瀬戸際のときを 今や迎えり。

人はこれまで幾度も、危難を乗り越え、解決し、学問、技術を発展させて、失敗、過ち、繰り返し、されどそこより学びし知恵を、糧にて今日まで 生存せるを。

なれど、今の世、地球の危機は、心の荒廃、衰退と、自然の蹂躪、神への冒瀆、人たるものの節度を忘れ、人たるものの使命を果たさず、

驕れる心と、高ぶり、我欲我執に 光を失い、

心の闇に 囚われぬ、最も危険の 最悪のとき。

ここに人へ、進む道、方向さえも、見失い、

目先の繁栄、経済優先、物質主義の 愚昧に落ちぬる。

人の心に 指針を示し、迷える御魂を 導くは、唯に神のみことばのみ。昔も今も、変わるることなし。

たとえ科学や 技術が進歩し、宇宙に人が飛び立てど、人は人にて、何千万年、生きる基本は変わるることなし。

空気や水にて命をつなぎ、海山の幸、大地の恵み、五穀の祝いを受けながら、

神の祈りに守られて、人はようやく、生き永らえる。

今の人の世、傲慢不遜の、畏れを知らぬ 振る舞いに、天地も最早、沈黙破り、

神の心を示すべく、その現われが 温暖化。早魃、豪雨、台風、地震。

地上の狂騒^{きやうそう}狂乱^{きやうらん}は、人の招きし、原因結果。
今こそ、人は 目覚めるときなり。

他人任せに、責^{せき}を逃れど、目をば逸^そらせど、罪は変わらず。
地上に起こる一切が、己に關わる 縁のもの。

心に現わる想念が、見えぬ波動で 地球を取り巻き、人から人へ、巡^{めぐ}りて回る。
憎しみ、悲しみ、妬^{ねた}みに恨み、繰り返される 憎悪の連鎖よ。

断ち切る勇気を、叡^{えいち}智^ちを、持てよ。

ことばの持てる 力に抛^よれよ。

怨^{えん}嗟^さのことばを 葬^{ほうむ}りて、尊^{とうと}き感謝の言霊を。

呪^{じゆそ}詛^その穢^{けが}れを 褻^{みそ}ぎ褻^{はら}いて、清き祈りの言霊を。

次にすべきは 行いなり。

地上に飢える何億の民。そもまた、己と無縁にあらず。

人の賢き英知英断。寸^{すん}暇^かの遅れも、今は許さじ。

時々刻々と 最期は迫れり。時計の針は 進むのみ。

人の心に 光を当てよ。神の言霊こそ光。

晦^{くろ}みに迷う人の手を取り、正しき道に 誘^{いざな}えよ。神の言霊こそ標^{しるし}。

さにて 本日、危急存亡のときを、人の最後の努力惜しまず、持てる力を出し切れよ。

神の祈りは 常に変わらず。人に届けと、送り続けむ。さにて。